

技術錬磨、さらなる発展へ

延岡支社は延岡・日向の6地区約30の工場を管轄する



旭化成

延岡支社

次世代型拠点へ進化 発祥の地で成長牽引

新增設投資でさらに強く

現在の旭化成の発祥の地である宮崎県延岡地区。延岡支社は、その延岡と近隣の日向の6地区約30の工場を管轄する同社最大の生産拠地だ。新陳代謝を繰り返しながら、90年以上にわたる生産目録と生産量を増やし、生産面から同社の成長を支えてきた。さらにここから、新增設計画を一段と活発化させてつくり、グローバルに活躍する高付加価値型企業への進化を目指す。果たすべき役割をますます高めている。



竹本支社長

旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。

旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。旭化成の延岡での歴史は、1923年に延岡で「サレチ法」アンモニア工場の建設を開始したのが始まり。



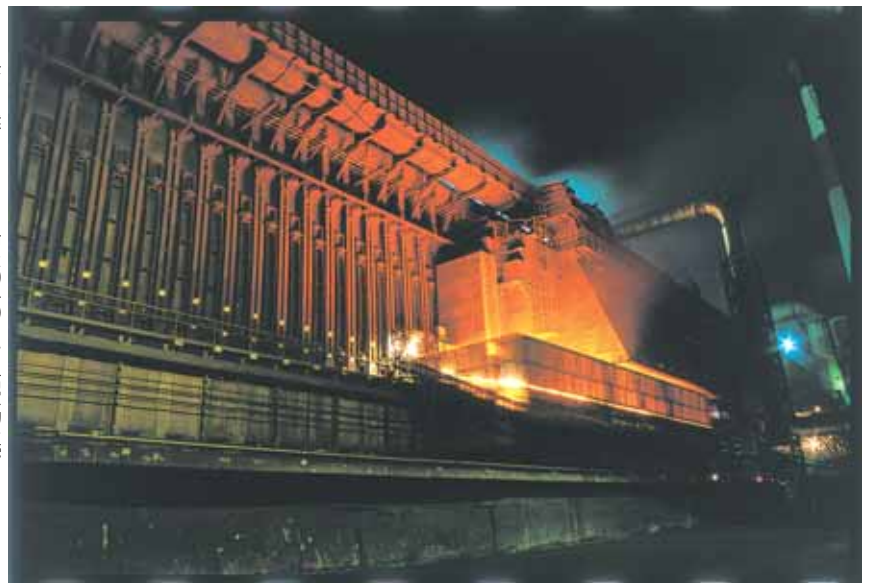
充実した発電設備が競争力の源泉になっているバイオマス発電設備

旭化成 延岡支社
〒882-0847 宮崎県延岡市旭町2-1-3

操業開始から半世紀 総合石炭化学に発展

三菱ケミカル 坂出事業所

坂出事業所



赤々と燃えるコークス炉は69年10月から高稼働を続けている

「100年コークス工場」めざす



古村事業所長

三菱ケミカルの祖業である石炭化学。発祥の地、黒崎(福岡県)からコークス炉の「産卵」の火を受け継いだ坂出事業所(香川県坂出市)は操業開始から間もなく50年を迎える。この間、伝統のコークス事業を守りながら、ニードルコークス、炭素繊維(CF)、リチウムイオン電池用負極材、アルミ繊維に業容を広げ、「総合石炭化学工場」へと発展してきた。次の目標は「100年の計」をいかに果たすか。工場基盤から成長分野まで積極的に投資を振り向けていく。

三菱ケミカルは総合化学メーカーであると同時に、製鉄原料のコークスを鉄鋼メーカーに供給する専門メーカー。通常、鉄鋼会社は自社の高炉に合うコークス

品質要求に沿ったコークス製品を安定供給 海外需要をよ

三菱ケミカルは総合化学メーカーであると同時に、製鉄原料のコークスを鉄鋼メーカーに供給する専門メーカー。通常、鉄鋼会社は自社の高炉に合うコークス

三菱ケミカル 坂出事業所
〒762-8510 香川県坂出市番の州町1番地

のみ作るが、国内外の顧客に異なる品質要求に沿った異なるコークスを作り分け、安定供給できるのが最大の強み」と古村事業所長は話す。コークス専門会社は世界でも数少なく、坂出のコークス炉は1969年10月の操業開始以来、高稼働を常に続けている。

コークスは耐火レンガを積み上げた、幅が40センチ、高さ7メートル、奥行き17メートルの巨大な炭化室で製造する。同社は3炉団323門の炭化室を備え、生産能力は年380万トンと、コークス事業では世界最大級の規模を誇る。

コークス事業における今後の課題は大きく2つあり、国内の高炉再編を乗りこえること、コークス炉の寿命を延ばし、持続性と競争力のある事業としていかに保っていくかだ。

国内の高炉再編では需要が伸び、一方で、世界需要は着実に伸び、三菱ケミカルでは国内のみならず、品質要求に沿ったコークス製品を安定供給 海外需要をよ

事業所長は「さらに風通しを良くしたい」と話す。伝統あるコークス事業と炭素繊維をはじめとする成長事業の両輪を加速するため、人材育成、技術伝承、安全・環境対策など工場基盤の一段の底上げにも力を注ぐ。